

2010年2月

アンデレ便り

2010年1月17日

今年の1月17日は日曜日と重なりました。神戸市内のどこを見渡しても、大震災の痕跡を見つけることは全く不可能となった町並みを眺めながら、須磨の聖ヨハネ教会に到着。教会では午前10時半と午後1時半に礼拝が行われ、朝の主日聖餐式では、顕現節第2主日の福音書「カナの婚宴」で水がブドウ酒に変えられた出来事を通して、神の栄光がマリアや弟子たちに顕わされた奇跡物語を学びました。

震災画

午後1時半より、大震災15年目を記念し、震災犠牲者を追悼し、御心にかなった地域社会実現のために祈りを献げました。これを具体的に表現するため、聖ヨハネ教会では、「震災画」を作成、礼拝の時にそれが披露されました。

ベニヤ板7枚を使い、三層に分けての物語を表現しております。第一層は、老若男女、ユダヤ人だけではなく外国人を含め、5000人以上の人たちが2匹の魚と5つのパンで養われた物語、第二層は大震災の時に起こった出来事、第三層は、黙示録22、23章に基づいた神殿が描かれております。巨大が都そのものが神殿であり、その中に、キリスト者だけではなく、宗教を信じる全ての人たち、諸国民が栄光と誉れを携えて神殿に詣でるのです。

震災による悲劇

大震災から15年の月日が経過し、被災者救援のために教会に滞在した立教高校や広島地域の高校生たちは全員社会人となっております。教会に避難した人たちのなかで高齢者の方々は、教会信徒の竹内さんご夫妻を含め3分の2以上の方々は天に召されていると思います。

大震災は多くの人たちの心に傷跡を残しました。地震さえなければ、ローンを組み、必死になって働いて得た家を、一瞬にして失うことはなかったのです。住まいを失い、体育館などで生活する必要はありませんでした。そのような場で起こった争いに巻き込まれる必要なかったのです。遠くの親せきを頼って行ったところ、1週間は歓迎してくれました。しかし、早く家から出て行って欲しい、という家族の思いが次第に明らかになり、肩身の狭い状態に置かれ、いたたまれずに、這々の体で神戸に帰ってきた人を沢山みかけました。ストレスが重なり、病を誘発し、死亡にいたるケースも多く見かけました。

ヨハネの人たち

ヨハネ教会に避難した人たちの状態はどうだったでしょうか。震災発生から1か月、教

会避難所は「貧しい人びとは幸いである。神の国はあなたがたのものである（ルカ福音書6章20節）」とイエスが言われたとおりの世界が実現されたのではなかろうかと思えてなりません。誰もが率直に心を開き、相手と会話することができました。与えられたもの全てを率直に受け取ることができました。率直に与えることもできました。多くのものを失いましたが、それにくよくよすることはありませんでした。教会の信徒は毎日のように教会に駆けつけ、焚きだしや被災者やボランティアの食事作りに精を出しました。

人間とはどのように生き、人と交わるか、の見本をこの教会を示すことができたということは、すばらしいことです。困難の中にある人たちのために教会を提供することが出来、また、信徒の多くがこの人たちのために奉仕することができたことは、大きな恵みであり、困窮化にある人たちのためになしたことはキリストになしたことなのだ、という聖書の御言葉が真実であることを確信したのです。

旧約聖書の人びとは、本当の救い主メシアが来られることを心待ちにしておりました。バビロニアとの戦争により、国土は奪われ、王は連れ去られ、神殿も破壊されました。国や自分たちの将来への展望を持つことができないとき、人びとはメシアを待望したのです。では、その時にどのような事が起こるのでしょうか。

メシアは山で宴会を開き油ののった牛肉と古い、えり抜きの年代物のワインを用意される。最高の霊のご馳走は4つの要素があるということです。それは第一に、顔の覆いを取り除かれることです。モーセが神の前で顔の覆いを取ったように、神によって新たにされた人たちはその覆いを取り、相対して席につきます。終わりの日に用意される第2のご馳走は死を滅ぼすことです。死によって全てが無になり、空しくなるという、人間の限界を乗り越えて、復活の希望が与えられるのです。第三と第四の恵みは同時に私たちの、人生における苦しみや悩みによって生じた様々な涙を神は拭い去ってくださり、そしりを除くのです。

教区事務所会議開催

1月15日（金）、教区事務所に関わる全てのスタッフが集合し、2011年までの2年任期の事務所運営について協議するための初会合が開かれました。

厳しい教区・教会財政と信徒減少のなかにあって、教区内各教会宣教活動をどのように支援するかが最大の課題となります。同時に教会の、地域社会への様々な働きかけに対する啓発活動を行う必要があります。加えて、教区外の宣教協働問題もかかえております。

その要が宣教部ですが、宣教部は、教区・教会の信徒教育に密接に関係する中高生会大会や青年会活動を担当しております。これらは教育的色彩の濃い活動ですが、主教座聖堂参事会や信徒・教役者神学塾も毎年、教育活動を実施しております。宣教部が更に、日曜学校、広島平和礼拝や、社会正義、差別、人権、なども取り扱うならば、余りにも範囲が多岐にわたり過ぎ、收拾不可能な状態に陥る危険性があります。

この2年間で、教区・教会に必要な、様々な問題に適切に対処できるよう、教区の機構

改革を実施する必要に迫られていると思います。これは主教諮問機関である「宣教検討委員会」での検討も必要となるでしょう。